

4. 中央図書館

(1)中央図書館開設

①中央図書館計画が具体化するまで

枚方市立図書館は、昭和48(1973)年4月に発足以来、自動車文庫や分室、分館を市内全域の身近な場所に配置することで、より多くの市民に利用される図書館運営を行ってきた。

一方で、それらの分館や分室など比較的小規模な図書館をバックアップする、より大規模で内容の充実した核となる中央図書館がないことが事業を進める上で大きなネックとなっていた。

中央図書館の役割を担ってきた枚方図書館は、枚方市駅に近いなどの利点はあったが、閲覧スペースが狭い、蔵書数が少ない、3階にあるのにエレベーターがないなど、中核的な中央図書館としての機能や設備が不十分であることから、本格的な中央図書館の整備が市民から望まれてきた。枚方市が平成13(2001)年度に実施した「図書館について」の市政モニター調査では8割のモニターが「中央館が必要」と回答している。一方、昭和55(1980)年1月の図書館運営委員会で『枚方市立中央図書館建設構想について』を答申されているものの、約20年もの間、具体的な進展はなく、実現するのは困難だと思われていた。

そこへ、市内で移転する関西外国語大学跡地を、防災拠点整備を含む「安心と輝きの杜」事業として枚方市が整備することになった。平成13(2001)年8月に関西外国語大学図書館棟が寄贈され、この図書館棟を生涯学習拠点施設整備の一環として「市立中央図書館」として活用することになった。中央図書館開設準備と図書館システム見直しが始まり、平成14(2002)年1月には「中央図書館整備検討委員会」(庁内委員会)を発足した。

②準備

平成15(2003)年4月、枚方図書館に企画担当を設置、中央図書館開設事務局の役割を担うこととなっ

た。平成14(2002)年度市政運営方針の「明日の枚方を切り拓く重点施策」の中では、中央図書館を「大学施設を活用して、『活力と輝き』の源」とし「中央館・分館・分室・自動車文庫を効率かつ効果的に再構築することやボランティアの参画についても検討」と記している。

5月から6月にかけて行なった市内の市民団体・ボランティア団体へのフィールドリサーチによって、多くの市民から中央図書館について様々な意見・アイデアが寄せられ、この意見を参考に市民参加の会議を実施するための委員選考を行なった。(市民からの意見は73件)。

その結果、7月に教育委員会内に「中央図書館整備推進協議会」(庁外委員会)を設置した。この協議会は、従来の学識経験者や関係団体の委員のみならず、市民や市民団体代表や図書館学を学習している学生も応募によって参加し、中央図書館についての意見を交わす場として13人で構成された。中央図書館整備推進協議会では、(旧)関西外国語大学図書館等の見学、大阪市立中央図書館の視察なども踏まえ、枚方図書館が提示した「(仮称)枚方市立中央図書館整備について(案)」を参考にし、検討協議を重ねた。

そして、調査検討の結果を枚方市の目指す「出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びをつくるまち、枚方」のまちづくり推進の一助となるように平成15(2003)年2月に「提言(仮称)中央図書館に関する報告」としてとりまとめた。報告には「数多くのサービス拠点を活かし地域情報拠点となる」といった、中央図書館が目指すべき課題とバリアフリー化やアクセス条件の整備など、中央図書館として活用するための要件を示した。

企画担当では、庁内委員会や庁外委員会、また図書館内部の調整をして、平成15(2003)年7月に「枚方市立中央図書館整備構想」をまとめ、さらに平成16(2004)年3月には「枚方市立図書館グランドビジ

ョン」を策定し、中央図書館を中心とした図書館全体の方向性を定めた。

中央図書館整備構想の中で、「図書館システム全体の基本的方向」について「中央図書館と、分館・分室・自動車文庫における効果的な集中と分担」、「IT重視のシステム構築と情報格差解消の保障」としてまとめた。

中央図書館整備構想とランドビジョンを具体的に明示したのが、平成16(2004)年8月策定の「枚方市立図書館システム再構築プラン」である。この再構築プランでは、中央図書館を中心とした図書館サービスを挙げる一方で、中央図書館と重複するエリア内のサービスポイントの見直し、具体的には①山田図書館の分室への変更、②招提分室のサービス方法の見直し、③御殿山図書館の閉館時刻の繰り上げ、④自動車文庫3ステーションの廃止などを示した。結果、招提分室は平成17(2005)年3月末を持って閉室、約23年間のサービスを終えた。

平成16(2004)年11月には枚方図書館を休館し、中央図書館に引き継ぐべく、移転作業に入った。約50万冊の所蔵能力を持つ中央図書館の開館時に間に合うよう、全館あげて選書、発注作業を行い、山田図書館、御殿山図書館からは、移管用図書を選定、移送が行われた。

枚方図書館で使用していた書架はかなり老朽化していたが、市民の目に触れない閉架スペースの書庫用に移設するなど、古い備品の有効活用に取り組み、備品購入予算の不足を補った。

③中央図書館改修工事

旧関西外国語大学図書館棟は、地下1階、地上7階建て(約9,301㎡)で、広い公園の中に位置する。建物の調査・設計・改修工事・環境影響調査等を経て、平成16(2004)年度より、平成17(2005)年度の開館を目指し、改修工事を始めた。

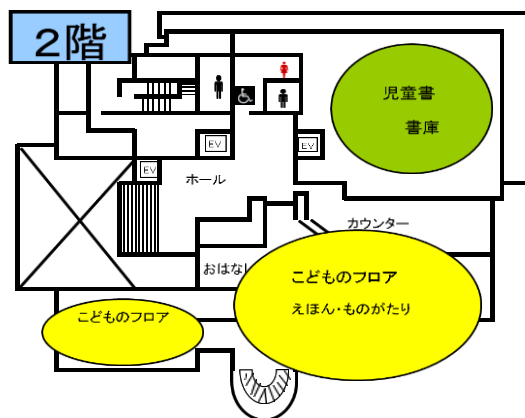
車椅子利用者などのバリアフリーに配慮するため、正面玄関左に設置したエレベーターは、前後の扉が開閉することで、方向転換せずに他の階へ行くことができるようにした。1階から6階までを結ぶ

エレベーターも1基増設し、触って場所や形態がわかる触地図を玄関ホールに設置。各階に点字ブロックなどを視覚障害者が実際に使用しての意見を取り入れて改善した。多目的トイレにはオストメイト、オムツ替えシートなどの設備を設置した。

④中央図書館の仕事

中央図書館では、自動車文庫の基地と作業室がある地下から、選書担当の事務室がある6階まで7層に別れて業務を行っている。1階には事務室、分館や分室への資料運搬用連絡棚などを配置した。また、1階北出口側の「軽読書コーナー」では、軽食・飲料水の自動販売機を設置し、飲食や自習を認めている。

2階は「こどものフロア」で木製の低書架に約4万冊を開架し、落ち着いた雰囲気の中に明るさや親しみがわくよう工夫した。段差はゆるやかなスロープに改善され、おはなし室や授乳室なども設けた。

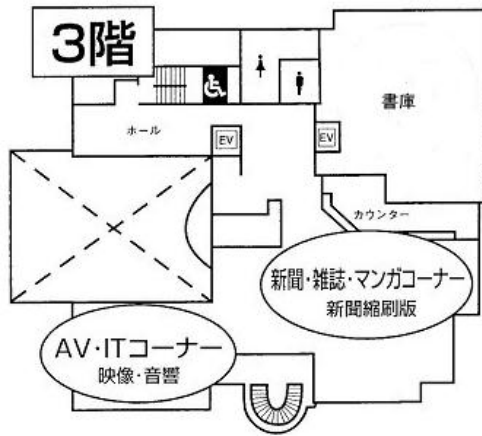


2階入り口付近



2階お話しコーナー

3階は「新聞・雑誌・マンガコーナー」と「AV・ITコーナー」のフロアで、インターネット端末、DVDやビデオが視聴できるAVブースを備えている。



3階PCコーナー



2人がけDVD視聴機

4階は最も広いフロア(1,343.09㎡)で、成人図書を開架する。予約図書の受け渡しの窓口でもあり、中央図書館サービスの中核である。入ってすぐの新作図書と特集本コーナーや、「安心と輝きの杜」にちなんで防災資料のコーナー、エコライフのコーナーもある。



4階エコライフコーナー



4階特集本コーナー

5階は「参考資料室」「障害者・高齢者サービス」「市史資料室」の3つの機能をもつフロアである。参考資料室では特定の知識・情報について調べるための辞書・百科事典・年鑑・便覧や地域資料・行政資料、25,000分の1の全国地図など専門性の高い資料も開架し、資料あるいは情報を求める利用者に対して、それらが得られるように援助するレファレンスサービスを実施している。小規模ながら「平和」コーナーも設置した。



「市史資料室」は文化財課の管轄であるが、郷土について資料を求めて来られる方には、参考資料室と協力して相談を受けている。中央図書館5階参考資料室の枚方市行政資料や郷土資料は貸出できるものがある。森繁久弥氏はじめ、枚方にゆかりの方の著作も集めている。



5階参考資料コーナー

「障害者・高齢者サービスフロア」では、点字図書や録音図書の貸出・閲覧をはじめ、障害者用インターネット端末、対面読書室、映像スタジオがある。開館当時、聴覚障害者の方も楽しむことができるようにとロビーに設置した手話・字幕付放送コーナーは撤去したが、緊急時用電光掲示を設置している。



5階フロアの障害に関する本コーナー



視覚障害者用デジ図書と再生機、カセット資料

6階には枚方市立図書館全体の資料収集を統括する「選書担当」があり、新刊図書購入などの検討のため各館から職員が集まって選書会議をしたり、図書装備をするための作業スペース、イベントにも使用できる「多目的室」と「会議室」、さらに「ボランティア室」を設置した。



多目的室で開いている「朗読大会」

⑤中央図書館開館からの新たな機能

中央図書館開館時に新たに、資料の貸出処理が正確に行われたかを確認する図書貸出確認装置(磁気式のBDS=ブックディテクションシステム)を設置した。そのほか自動貸出機、IP電話、搬送システム(地階から6階まで各フロアを結ぶ業務用のリフト)の導入などを行なった。

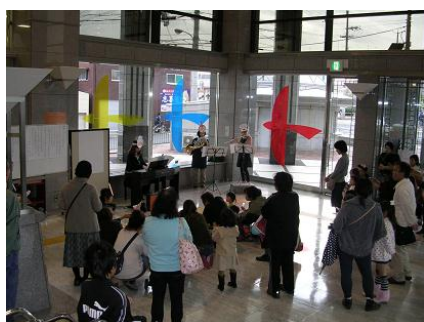
平成21(2009)年7月には、「商用オンラインデータベース」の専用端末を中央図書館3階に設置し、従来の参考図書に加えて官報や法律・経済・医療等に関する最新情報の提供をスムーズに行いビジネス支援サービスの充実を図った。また、平成26(2014)年、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを府下で2番目に導入し、利用に供している。



商用データベースは3階にコーナーがある

中央図書館は祝日も開館、休館日は毎週金曜日とし、毎月の館内整理休館日は第4火曜日とすることで分館の休館日とは重ならないようにして、いつでも市内どこかの図書館を使えるようにした。(分館は毎週月曜日と毎月第3木曜日の休館)。

音楽と本のある場所を融合させたり、絵本画家を招いてワークショップをしたり、これまでできていなかった大がかりな催しも中央図書館を中心に実施できるようになった。

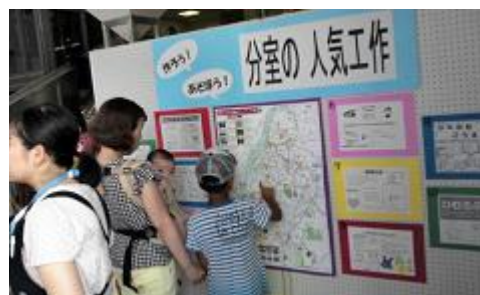


職員の楽器演奏による歌と音楽のおはなし会

平成27年度は1年をかけて10周年記念行事を行った。11月3日は中央図書館のあちこちでイベントを実施し、大いににぎわった。



7月 ミロコマチコさんと窓ガラスに絵を描く



8月には分室の人気工作を中央図書館ロビーで



11月のバックヤードツアーも大人気

⑥中央図書館の周辺

整備が進められていた「輝きプラザきらら」及び中央図書館周辺の整備も牧野・楠葉方面へ都市計画道路楠葉中宮線が開通するなどアクセスも向上した。芝生や樹木が植えられ、健康遊具なども配置された防災公園は、平成18(2006)年4月に「車塚公園」としてオープン。公園に面した中央図書館地下部分への飲食店を公募した。中央図書館は、緑でいっぱいの、夏には人気の小さな噴水や滝のある公園と共に親しまれている。



「スズキコージさんとお面つってパレード」(2011)

(2)中央図書館ボランティアについて

平成17(2005)年、中央図書館開館時から、市民参加による図書館活動の充実を目指し、ボランティアの登録を市民に呼びかけた。中央図書館がこれまでになく広く、死角も多い建物であるため、館内の巡回や正面玄関での案内、書架の乱れを直すことについて重点的に研修を行い、曜日と時間帯の希望を調整してスタートした。

ボランティアの活動は、読み聞かせ講座を受講した人たちで作られた「ひらりんかたりん」によるおはなし会、図書の修理研修を受けた人による修理作業、市民からいただいた寄贈本を受け入れるための装備、リサイクル図書の整理、新聞記事のコピーやデータベース化、3階で所蔵するDVDやCDのチェックなど多岐にわたっている。新着図書案内(2,200部発行)の折込や中央図書館での行事開催時の場内整理など、縁の下の力持ち的な役割をも担ってもらっている。6階には専用作業室があり、ボランティア同士の交流の場にもなっている。当初、職員との

連絡調整は、日常のサポート、コーディネーター担当の職員が行っていたが、現在は中央図書館の職員が曜日ごとに交代で連絡係をして交流を図っている。



ひらりんかたりんおはなし会のようす



玄関正面の月替わり展示もボランティアの手作り

毎年100名を越える参加があり、中央図書館や市内図書館サービスが円滑に進められている。初回から参加の人もおられ、10年を中央図書館とともに過ごしてきてくださったことに感謝している。



ボランティアへの感謝状贈呈式後館長室で(2014)



ボランティアによる薬草いけばな展示(2015)

(3) 枚方市立中央図書館市駅前サテライト

平成 18(2006)年 1 月に開室した枚方市立中央図書館市駅前サテライト(以下「サテライト」)は、定期的な休室日を設けず、平日午前9時から午後7時、土日祝日は午前10時から午後6時開室という枚方市ではこれまでにない施設である。セルフ貸出機の導入も目新しかった。

「サテライト」という名称は、中央図書館から蔵書をはじめとする支援を受けるという形態から、「衛星」を意味して命名された。

市民会館3階にあった枚方図書館は、京阪枚方市駅や市役所に近く、枚方市の中心というイメージが強かった。中央図書館が車塚に移転する準備で閉館した後に、市民からは京阪枚方市駅周辺に図書館設置を求める声が多く寄せられたため、移転準備作業と並行して新聞・雑誌の閲覧と資料の予約を取り扱う窓口としてのサービスを実施した。

そんな中、京阪枚方市駅北側に位置するクラボウ跡地に開設される関西医科大学附属枚方病院(以下関西医科大学附属病院)から、情報交流センター2階の一部分を無償貸与するとの申し出を受けた。

市民会館の図書館サービスコーナーは平成17(2005)年11月に閉じられ、12月にはサテライトの事前説明会を兼ねた記念式典が行われた。

関西医科大学附属病院情報交流センターは、円形の特徴的な建物で、サテライトのある2階へはエス

カレーター、エレベーターが完備されている。サテライト前の通路は病院へ続いており、反対側は旧国道をまたぐ歩道橋であるため、日中は病院を利用する人が往来し、通院時のみの一時的な利用も多い。また、子ども連れや高齢者が地域の図書室として利用し、通勤通学者の予約受け渡し場所としても定着した。

中央図書館に次いで図書貸出確認装置(BDS)や、コイン式のセルフ複写機が導入され、利用者が自由に情報検索できるパソコンの時間貸し、医学・医療に関する一般書の棚の充実など、他の分館分室にはないサービスを展開している。

